

課題の概要

- 提案構想名 「地方総合大学における若手人材育成戦略」
○総括責任者名 「齋藤 寛」
○提案機関名 「長崎大学」

機関の現状

長崎大学は2件の21世紀COEプログラムを実施しており、両拠点は、既に特筆すべき研究成果を世界に発信するとともに人材育成でも大きな成果を上げつつある。中間評価の結果はいずれも「A」であり、既に世界水準の拠点となっている。長崎大学は拠点形成に必要な研究能力と制度運用能力を有している。

過去3年間に助手が内部昇格した件数が59件、外部機関への昇進が90件であり、着実に若手研究者を育成している。また、ポストク、有期雇用教員数も着実に増加している。さらに若手研究者への学内措置による研究支援制度を設け、支援を実施している。

教員の任期制については、大学院生産科学研究科、大学院医歯薬学総合研究科及び熱帯医学研究所で導入している。また、特任教職員の有期雇用制を導入しており、柔軟な給与額算定が可能となっている。

人材システム改革・若手研究者育成の構想

長崎大学の重点研究課題領域においてテニュア・トラック制度を導入し、連綿と優秀な若手研究リーダーを生み出していくとともに、その定着を図るため特任教員制度を改善し、地方総合大学において世界的研究拠点を形成する際のモデルとなる若手研究者育成システムを実現する。

若手研究者に5年間のテニュア・トラック助教の身分と独立して研究を実施できる環境（スペース、研究資金、研究以外の負担の軽減）を与え、自立的に独自の研究を行わせる。また、重点研究課題リーダーからテニュア・トラック助教に対し研究への助言、支援を行うとともに、メンターを配置しラボ運営、大学運営への参加等について助言を行うことにより若手研究リーダーとして育成し、5年後には高いテニュア取得率を目指す。テニュア審査にあたっては、テニュア推薦委員会、テニュア審査委員会を設け透明性の高い人事制度を実現する。

本事業終了時には、テニュア・トラック制度を大学院生産科学研究科、大学院医歯薬学総合研究科及び熱帯医学研究所全体に拡大するとともに全学導入を目指す。

ミッションステートメントの概要

中間時には、学外委員を含む委員会による、中間評価を実施し、研究の進捗状況をチェックし、研究戦略、ラボ運営等について必要な修正等を行う。その際、テニュアポストにふさわしい能力を発揮したものは、積極的にテニュアを与える。また、テニュア獲得が困難と考えられる者には、その旨を伝え、転進の方向などについて積極的に大学として支援を図る。3年目までに得られた問題点等を元に、制度を確立し、運用について必要な改善を行うとともに、重点研究課題以外の領域でのテニュア・トラック助教採用を開始する。

終了時には、テニュア・トラック助教の最終評価を行い、審査を通過したものは、テニュアとして採用する。また、研究の成果を評価する。テニュア・トラック制度の最終的評価を実施し、制度運用面での改善を図るとともに、メンターシステムの確立を目指す。大学院生産科学研究科、大学院医歯薬学総合研究科において、領域を限定せずテニュア・トラック制度を導入するとともに全学での導入を目指す。

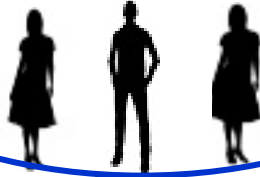


長崎大学

NAGASAKI UNIVERSITY

テニュアトラック制度

(国際公募：15名)



地方総合大学の個性化戦略分野を拠点フィールドに、
優秀な若手研究者を育成

学長

テニュア
審査委員会

テニュア
推薦委員会

学外有識者
外部評価委員会

部局長など

実施体制

研究内容及び
研究マネジメントの助言

支援

国際連携研究戦略本部

世界的
研究拠点

COEなどに採択され、広く認知された
世界水準の研究課題

放射線
医療科学

熱帯病・
新興感染症

東アジア
海洋資源研究

長崎大学
重点研究課題
(10課題)

今後の長崎大学の特色ある研究を先導しうる課題を
大学独自に選定

東アジアに最適な
金融システム研究

感染症
創薬研究

痛み克服の
国際研究

ナノダイナミクス
融合物質科学

骨格系基盤研究

リアルタイム情報処理
技術融合

子どもの心を育成する
コミュニケーション学

課題リーダー

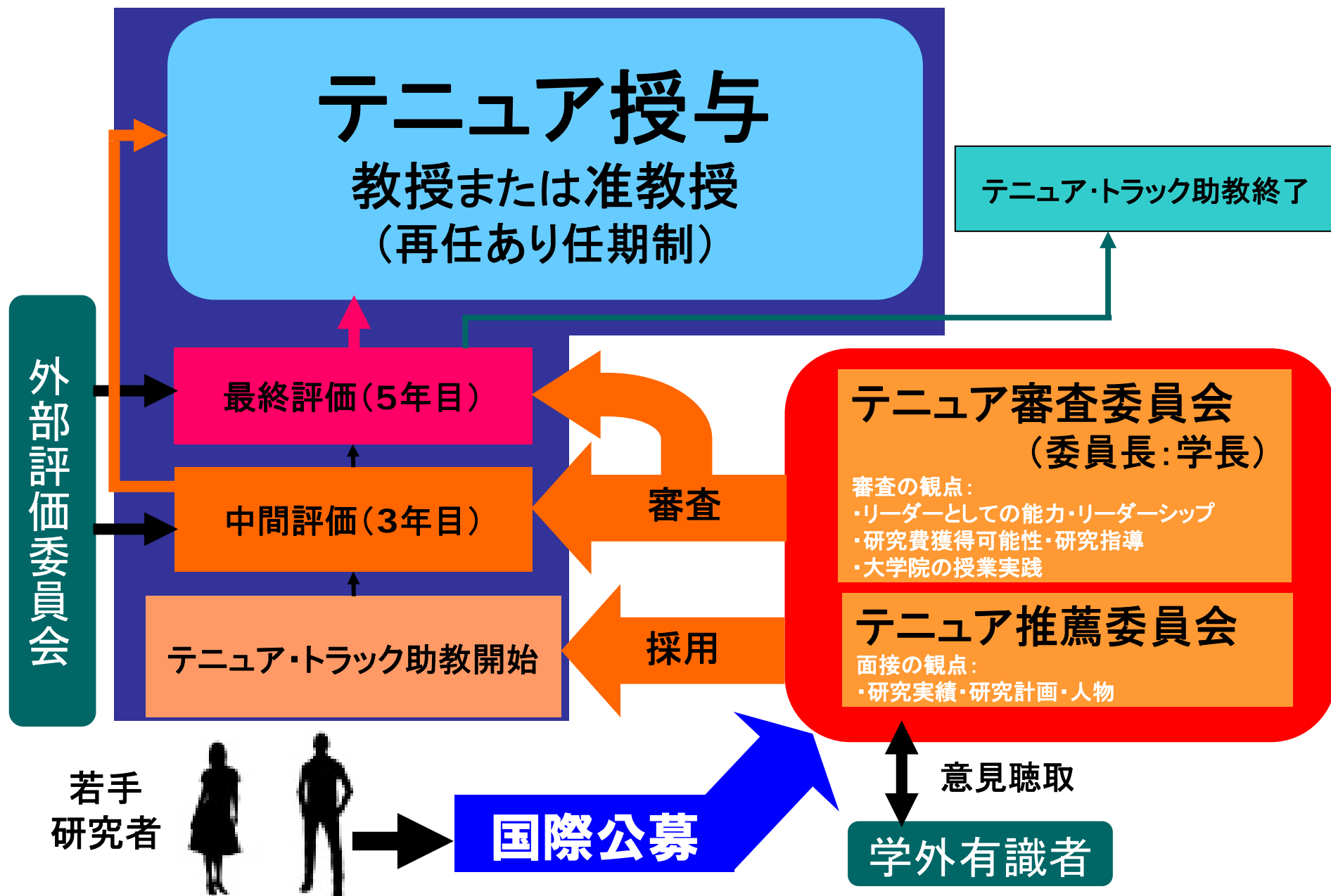
熱帯医学
研究所

医歯薬学
総合研究科

生産科学
研究科

経済学
研究科

長崎大学・テニュアトラック制度(実施内容)



- 提案構想名 「地方総合大学における若手人材育成戦略」
 ○総括責任者名 「齋藤 寛」
 ○提案機関名 「長崎大学」

(1) 人材システム改革構想の概要

現在、長崎大学の大学院生産科学研究科、大学院医歯薬学総合研究科及び熱帯医学研究所においては5年毎に審査を行う任期制を取っているが、対象となる教員はほとんどが定年制による雇用である。任期制導入により教員の教育研究面での活動は活性化されてきているが、おのずからその運用には限界がある。このため、教員を採用する時点が、一回限りの大事な人事管理・運用の要点となっている。

今回テニユア・トラック制度を導入することにより、助教に対し5年間の試用と育成の時間を得ることが出来、採用時のリスクが大幅に低減されることとなる。このことは、地方総合大学が、可能性はあるが、将来本物になるかどうかまだ見極めがつかないという若手研究者を他に先駆けて積極的に採用する機会を得ることであり、さらに、その若手研究者に独立した研究環境と新たな研究に挑戦し、その成長を促す機会を与えることが出来るということである。

この制度改革により

- ・助教がテニユア・トラック期間に自立して、集中的に研究する機会を得られる。
- ・重点研究課題のリーダーの下、研究面を中心に指導・助言が得られる。
- ・メンターとして指名された大学での経験が豊富な同僚という立場の教授が、さまざまな助言を与える体制が構築される。特に、研究室を自ら構成し、学生やポスドクなどの部下を使うときの要点を学ぶ機会が得られる。
- ・長崎大学が、優秀な若手研究者を輩出し、国内外の大学等への人材供給機関としての地位を得る。
- ・優秀な若手研究者が重点研究課題領域で育成され、国際的研究拠点へと発展していく。
- ・テニユア（定年制）の処遇だけではなく、望めば、厳しい評価制度の中でより良い処遇が得られる特任教員制度を選択できる制度を設け、より多くの優秀な研究者が地方総合大学に残りたくなるようにする。
- ・今後10年程度は、多数の教員の定年退職が見込まれることから、教授、准教授、助教の構成バランスの適正化を図りつつ、テニユア・トラック制度の拡充が可能である。

(2) 3年目における具体的な目標

中間評価を実施し、研究の進捗状況をチェックし、研究戦略、ラボ運営等について必要な修正等を行う。

テニユアポストにふさわしい能力を発揮したものは、積極的にテニユアを与える。

また、テニユア獲得が困難と考えられる者には、その旨を伝え、転進の方向などについて積極的に大学として支援を図る。

3年目までに得られた問題点等を元に、制度、運用等について必要な改善を行うとともに、重点研究課題以外の領域でのテニユア・トラック助教採用を開始する。

(3) 実施期間終了時における具体的な目標

テニユア・トラック助教の最終評価を行い、審査を通過したものは、テニユアとして採用する。

研究の成果を評価する。

テニユア・トラック制度の最終的評価を実施し、制度運用面での改善を図る。

メンターシステムの確立を目指す。

大学院生産科学研究科、大学院医歯薬学総合研究科及び熱帯医学研究所において、領域を限定せずテニユア・トラック制度を導入する。

他の部局での導入を目指す。

(4) 実施期間終了後の取組

本事業では、長崎大学の重点研究課題領域でテニユア・トラック制度を導入することになっているが、対象となる大学院生産科学研究科、大学院医歯薬学総合研究科は長崎大学の大学院研究科の中心であり、博士課程後期の95%以上の学生が在籍している。また、熱帯医学研究所は附置研究所である。このため、この時点で、制度としては研究を主とする部局にはほぼ導入したことになる。事業終了後は、制度を確立し本当の意味での全学導入を図ることが残るだけで、その実現を目指す。

また、本学では新任教員全てに対し、学長裁量により研究費を配分しており、さらに競争的研究資金獲得前の萌芽的研究に対しても同様に研究費を配分している。事業終了時までには、学長裁量による研究費配分をさらに若手中心に微修正することにより研究費予算面からの制度維持に問題はない。

さらに、今後5年間で、100名を大きく超える教員が定年退職を迎えることとなっていることから、人員管理、人件費管理の面で大きな障害はなく、人事制度改革には絶好の機会となっている。

本事業により、テニユア・トラック制度の試験運用の機会を得、必要な改善を図ることにより、より完成されたテニユア・トラック制度を長崎大学に導入し、発展させていくことが可能である。

(5) 期待される波及効果

重点研究課題領域を研究拠点として強化しつつ、テニユア・トラック制度導入を図る長崎大学の人事改革は、地方総合大学におけるモデルになるものである。

テニユア・トラック制度の導入により、重点研究課題領域でCOE拠点を形成していくことが可能となると期待される。さらに、大学全体の活性化を促し、研究レベルをいっそう向上させることできる。

さらには、今回の事業応募に当たり、長崎大学内において教育面等で制度的検討を要することが浮かび上がってきており、長崎大学の活性化という点では、既に波及効果が現れてきている。